



日経ビジネスに見る「経済先読み・解説」 143号

経営コンサルタント 栗田 剛志 12.05.28

発行元：m9コンサルティング

<http://www.m9consulting.biz>

このメールマガジンは、今週発売となる日経ビジネスの中から気になった記事を選び、私なりの視点で考えたことについてお伝えするものです。会社での朝礼時のネタ、取引先との会話、同僚との間の話題づくりにお役に立てたらと思い、毎週月曜日に発信いたします。

「日経ビジネス2012年5月28日号 no.1643
『働き方の研究 ～働くのは6時間だけ』」より

【働き方は変えられる】

みなさんは、一日何時間働いているでしょうか。

朝6時に起きて準備をし、7時に家を出て会社に着くのは8時半。その日一日の予定を確認して、9時始業。朝礼の後商談の準備をして、日中は取引先回り。午後5時に帰社し、その日の残務処理と日報を書き終えて退社するのは午後21時。電車で揺られて22時半に帰宅。風呂に入ってご飯を食べて、布団にもぐり込む。

何の変哲もないサラリーマンの一日です。それでは、この人は一体何時間働いたことになるでしょうか。

8時半から働き始めて、21時に退社したから、12時間半？

昼ご飯を食べるのに、20分かかったから、12時間10分？

アポイントの時間まで少し間が空き、30分お茶をしたので、11時間40分？

いやいや、移動時間は何も産み出していないから仕事とは言えず、4件の取引先を回るのに合計2時間10分移動していたから、9時間30分？

それじゃ、通勤時間は仕事？残務処理でパソコンに向かっている間に週末のことを考えていたのはプライベート？

考えるときがありません。

日本では、長時間働くことが是とされる風潮があります。

規定は8時間労働でも、拘束時間はそれを大幅に上回る一方で、会社への貢献につながる働きは、実際のところその半分程度だったりします。

「なぜこのようなことが起こるのか。世の中には、8時間労働に縛られ、ダラダラ働く習慣が蔓延している。残業を減らそうという動きはあるが、その発想自体がネガティブで革新性がない」

こんな思いから、会社の規定の労働時間を6時間と定め、働き方そのものを変えようとしている会社があります。

その会社の名は「スタートトゥデイ」。ファッション界の革命児は、何を目指しているのでしょうか。

「スタートトゥデイ」は、アパレル専門のEC(電子商取引)サイト「ゾゾタウン」を運営する会社です。ネット通販には最も不向きだと言われていたアパレル商材を2000年から販売し始め、この5年で売上高を5倍以上に押し上げました。

取扱う衣服や靴などをすべて独自の基準で採寸して検索の利便性を向上させ、「服は試着してからでないと買わないから、ネットでは売れない」という固定概念を破壊し、衣料品販売の革命を起こしました。

そんなスタートトゥデイが打ち出した次の革命は、6時間労働です。

これまでの勤務時間は他の企業と大差のない午前8時30分から午後5時までで、1時間の食事休憩が含まれているものでした。

それをこの4月より、午前9時から午後3時の6時間勤務に変更したのです。昼休憩はなく、みっちりと集中して6時間働きます。

労働基準法では、勤務時間が6時間を超えれば45分、8時間を超えれば1時間の休憩時間を挟む必要があります。一方で、勤務時間が6時間であれば、休憩時間は要らないこととなります。

では実際に、これまで8時間労働で行っていた仕事を6時間で行うことはできるのでしょうか。

スタートトゥデイで最初に手を付けたのは、会議です。

半ば当然のように設定していた1時間という会議時間の短縮を図りました。また、会議で使用する資料作成についても、凝り始めるときりがないパワーポイントでの作成をやめ、簡単なメモに変えました。

社内のコミュニケーションのあり方も抜本的に見直しました。社内のメールで長文は不要とし、可能な限り簡素に伝えたいことだけを書くこととしました。そもそも口頭で済ませられるものはメールすら使わないようにもしました。

こうした時短への取り組みによって、帰社した後に子供を迎えに行くことができ、趣味や勉強の時間に充てることもできるようになったのです。

スタートトゥデイの前澤社長が目指しているのは、「上場企業でありながら、日本が培ってきた本来の家族経営の姿を体現する」ことです。

その根底には、「仕事」ではなく「自事」という、『仕事の概念は、「仕える事」ではなく「自然の事」である』という思いがあります。仕事とプライベートの垣根をなくし、従業員が親友のように仲良くなっていくことを意味します。

売上は二の次です。従業員同士が家族のようになり、仕事とプライベートの壁を乗り越えて、生き生きと働き、生活する。社員が楽しければおのずと売上が増え、利益が生み出されると前澤社長は信じています。

私は、働く時間が決められた生活を辞めて、4年目となりました。サラリーマン時代と比べて、実際に働く時間はかなり多くなっています。一方で、家族と過ごす時間や自分の好きなことをする時間も増えています。

これはどういうことかと言うと、働く時間とプライベートな時間を細切れに不連続で続けることができるからです。

朝6時に起きて、顔を洗って目を覚ましたらすぐに仕事に取りかかります。朝ご飯が出来上がるまでの1時間で、メールをチェックしたり、その日の段取りをします。家族揃って朝食をとり、8時に登校する子供たちを見送ってから私もお客様のところに向かいます。

午前中いっぱい仕事をしたらあと、家に帰り、仕事をしながら息子が学校から帰るのを待ちます。息子が帰り、おやつを食べさせたら、クラブチームで息子とサッカーの練習です。私もユニフォームに着替えて一緒にグラウンドを駆け回ります。家に帰り、息子と一緒に風呂に入った後、夕方6時からのお客様との打ち合わせのために電車に乗ります。

厳密には違いますが、ある意味で「仕事を自事にする」という考え方を実践しています。前澤社長とはやり方は違いますが、目指しているのは同じ方向にあると思っています。仲間を集め、このような「自事」ができる職場をつくるのが私の夢です。

「一緒に働く仲間が幸せであること、楽しんでいること。それが唯一無二の目標だ」。こう公言する社長さんに心から憧れます。

働き方は変えられるはずですよ。